

様式第2号

視察研修先	鳥取県米子市議会	氏名	渡邊賢一
視察研修項目	皆生みらいの灯り推進事業について		

1. はじめに

米子市は、「歩いて楽しいまちづくり」の実現に向けた取り組み、「車中心」から「公共交通」と「歩行者中心」の空間へと転換し、人々が集い・憩い・多様な活動を繰り広げられる場へ生まれ変わらせることを目指しています。これを実現するため、ウォーカブル推進事業をはじめ、JR 米子駅周辺の整備、公共交通の利便性向上、かわまちづくりの推進、海岸線の活用、公共空間の規制緩和、街灯や歩道的美装化、官民でのウォーキング推進などに取り組みつつ、ここに集う人々が「歩いて楽しい」を実感できる街を整備しています。その一環として、日本トライアスロン(水泳・自転車・マラソンの3種目競技)発祥の地である皆生温泉の遊歩道を暖色の街灯に照らすことによって、情緒あふれる温泉街を演出するなど、まちづくりの整備を進めています。

さて、皆生温泉は、約100年前、有本松太郎が家業であった土木請負業を継ぎ、山陰鉄道工事で事業を成功させ、明治末頃、山陰線鉄道工事の関係で米子に住むようになりました。明治33年(1900年)皆生海岸から湧出していた皆生温泉の開発に専念するようになり、大正9年(1920)海中調査を開始、大正10年(1921)5月正式に「皆生温泉土地株式会社」を発足させました。同年6月には温泉掘削許可を受けて掘削に取り掛かり、1ヵ月後には、温泉源(皆生温泉第一源泉)を掘り当てました。そして、60メートル四方の1区画を基本として、土地区画整理事業を実施し、先見の明を持ってまちづくりの基盤整備を行ったのでした。その後、旅館大山館の建設、大正11年(1922)には乗合自動車会社(8ヶ月で営業権を山陰タクシーに譲渡)をはじめました。大正12年(1923)には米子皆生間の米子電気軌道株式会社を設立し、専務取締役役に就任し、大正14年(1925)には皆生温泉パラダイスなど、旅館・商店が増え、現在、23の温泉旅館が営業しています。



写真

海岸近くにある有本松太郎氏の銅像

2. 視察地の選定理由

本市にとって、コロナ禍により3年超の間、観光客の激減という多大の苦難を乗り越えてきた「寒河江温泉」の魅力アップが大きな課題となっております。また、駅前を中心商店街を含む本町・中央地区について、空き店舗、空き家、空き地が激増し、中心市街地の空洞化対策が待ったなしであります。

そのため、温泉旅館・ホテル周辺の街路灯整備、JR 寒河江駅や西寒河江駅から冬のイベント「音と光のファンタジア」の会場となる最上川ふるさと総合公園までの照明、新寒河江温泉市民浴場「ゆるりさがえ」周辺の魅力あるまちづくりを進めていくためにも参考にさせていただくために、私たちが視察地として選定させていただき、今回実現に至ったところです。改めまして、私たちの視察受け入れをご快諾いただきました米子市議会稲田清議長様はじめ議会事務局田中係長様、そして文化観光局観光課諏訪係長様はじめ職員の皆様に対しまして、衷心より感謝申し上げます。



写真 温かい色に包まれる温泉街の街灯



写真 静かな遊歩道に灯る街灯

3. 皆生温泉「温泉情緒ある景観(夜景)」づくりの概要

「皆生温泉まちづくり会議」の公開資料から抜粋

(1) 皆生温泉「みらいのあかり」コンセプト

① 海側から見える夜景の改善

砂浜と海岸線と旅館が形成する『シーサイドを見通すビスタ』そのものが皆生温泉ならではの魅力。現況の遊歩道照明設備を改修し、砂浜や波濤を照らし日本屈指のシーサイドリゾート景に磨き上げる。

② 視点場の照明整備

皆生温泉の誘客を支えてきたホテルや海岸からの「海の眺望」これからは、昼の眺望だけでなく、遊歩道や公園から「夕刻から夜に、海を眺められる」「波音を楽しみながら佇める」など、佇める視点場や座れる場所のあかり整備を行う。

③ 飲食の漏れ光を獲得したい

世界の海洋リゾートに不可欠な 海側からの飲食アクセスを 皆生温泉街で実現すること

をめざす。海岸遊歩道からアクセスできる「食」が実現し海側がフロントになれば、遊歩道の夜間の印象は大きく改善し、様々なあかりのおもてなしが可能になる。

④ 海をバックにした撮影スポットの整備

昼夜を問わず来街者に撮影の楽しみを提供するモニュメントを計画し夜間には色光等で演出する。

⑤ 海浜アクティビティを支える電源整備

今後期待される様々な海浜アクティビティ・公園の使いこなしを支える照明設備と電源設備を計画する。

⑥ 路面が明るく、歩く楽しさのある遊歩道へ改善

海岸遊歩道を 安心して 歩ける道に 歩く楽しさ 歩く発見の 提供 海からの VISTA を阻害しない照明

(2)照明手法について

① あかりの色(色温度)・・・温泉街にふさわしい電球色への統一

情緒的な温泉街や上質さをめざす観光地においては、公共・民間施設共に照明の色温度は、落ち着いた風情のある電球色(3000K 以下)での統一が望ましく、特に民間施設は2700K 以下がおすすめです。「日本らしい温泉情緒」に電球色での統一は不可欠だと考えます。

② 最適な配光・・・・・・・・道路照明は、窓辺に眩しくなく、路面は明るく

海岸沿いの既存道路照明は白色の拡散光であり老朽化しているので改修が必要です。整備にあたって全てを刷新し、ポールにスポットライトにすることで路面が格段に明るくなります。砂浜演出用照明を共架すれば砂浜も演出できます

③ まちの特徴を活かす・・・松、ランドマーク・彫刻をライトアップし風景を創る

・皆生温泉の特徴である砂浜や松林は、ライトアップすることで、皆生温泉ならではの夜間景観を創ります。

・今ある銅像や建築物も、点在する景観資源となり、海遊リゾートのクオリティを高める効果があります。

④ 各旅館の滲み出し・・・・・・・・海側のにぎわいに寄与する事業や効果の探索

現在は閉じている各旅館の海側1階の活用は「海遊リゾート」の重要なファクターとなります。海側からアクセスできるカフェやレストラン、テイクアウトカウンターなどの整備により、それらの漏れ光などの旅館の滲み出しが、日常的な誘客につながると考えます。

⑤ 公園の活用・・・・・・・・今後の活用を想定した照明・電気設備計画

東屋やトイレ等の建物や松の木をライトアップすることで、明るさ感が高まり夜間にも活用できる公園となります。また、イベントの照明・電気設備を計画することで、キッチンカーやマルシェなど様々な公園イベントの開催が可能になります。

⑥ 鉛直面の明るさ感・・・・・・・・安全安心に寄与するライトアップの効果

夜間には暗がりになる樹木は、ライトアップすることで、安心感と眺める心地良さを創ります。防波堤や植栽など、現在暗がりとなっている鉛直面を照らすことで、安心感が生まれ

回遊性が高まります。海沿いでのそぞろ歩きを、宿泊客・来街者・住民それぞれが楽しめる環境をめざします。

⑦ 通りの美的価値創出……中心街路にふさわしい印象を光の効果で創る

街路照明の色温度調整や樹木のライトアップなど、メインストリートにふさわしいあかりの装備にアップデートが望まれます。さらに和の情緒を高める工夫として、民間駐車場のファサードやフェンス等もできるだけ木製にし、間接照明を組み込むなどができれば、安心感と美的価値が高まります。

⑧ 照明制御……夜間景観を担保したまま省エネルギーに配慮

快適さと安心安全を担保しながら、深夜のエネルギー管理を行うことはSDGsが求められるこれからの公共照明整備では必須ともいえます。時間や季節に応じた照明制御が可能な照明器具の採用が最適です。

⑨ 界隈のつながりを視覚化・共通のあかりを灯す

四条通りにはオリジナル提灯の導入も検討する。電池式光源を使えば、家主が不在でも設置可能。

皆生温泉の海岸線沿い遊歩道街灯のリニューアル(日本海新聞 4月24日号)

米子市皆生温泉の海岸沿い遊歩道の街灯がリニューアルされ4月22日、同市皆生温泉4丁目の皆生海浜公園でお披露目式が行われた。暖色の街灯に照らされた遊歩道が情緒あふれる温泉街を演出し、関係者は歴史ある皆生温泉のさらなる発展を期待した。市は「皆生みらいの灯(あかり)推進事業」と銘打ち、地域資源である海や砂浜を生かした皆生温泉の夜の景観向上に取り組んでいる。2020年度に旅館経営者らでつくる皆生温泉まちづくり会議が、官民連携でコンセプトを策定。昨年度は同公園から湯喜望白扇(同市皆生温泉3丁目)までの約600メートル区間でポール灯18基を交換した。式では、地元関係者らがテープカットを行い、完成を祝福。デザインを担当したLEM空間工房の長町志穂代表はリモート参加し、「大切な白砂青松や独特な美しさのある海岸など、皆生はここにしかない素晴らしい風景。力を合わせてすてきな街になってほしい」とエールを送った。本年度は同公園から皆生グランドホテル天水(同市皆生温泉4丁目)までの約400メートル区間でポール灯12基を新設し、来年4月の供用開始を予定。皆生温泉エリア経営実行委の坂内和孝副会長は「この環境を活用することが重要。機運醸成や仕組みづくりを進めていきたい」と意気込んだ。

3. 質疑応答

8月8日、現地の米子市観光センターにて、文化観光部関係者の皆様にご質問させていただき、資料を頂戴しご回答いただいたものを後日まとめたものです。

(1) 事前提出分

Q1. これまでの観光客受け入れの実績について

A. 28のアクションプランを実施して魅力アップを図り、地域経済が元気になるように波及効果を与えることが目的である。観光客の推移と実績は、2019年40万人、2020年26

万人、2021年24万人、2022年33万人、2023年は40万人の見込み。

Q2.観光客のリピーター率について

A.魅力アップによって、海水浴、マリンリゾートやトライアスロン、大山のスキーリゾートの宿泊客が増え、実際の統計は出されていないものの、魅力アップによって、確実にリピーターが増えている。特に、市外からの観光客のリピーターが増加している。また、公園や周辺の駐車場を共同利用して、マルシェやキッチンカーなどを呼び込んだイベントを実施し、市民や県民の集客につながっている。

Q3.お土産品の売り上げ増や連泊滞在延長について

A.具体的な実績については、統計資料がない。

Q4.独自のオプションツアーなど今後の展開について

A.サンセットクルーズなどの運行や海上からのウォッチングなどオプションツアーについては、今後の検討に含まれる予定。

Q5.今後の課題について

A.現在、海水浴の期間には、10分程度のミニ花火大会を毎日実施し、好評を得ているが、継続していきたい。国の離岸堤の建設に関する補助事業を活用していきたい。また、現在優先して整備しているメイン通り(T字ゾーン)のみならず、その周辺整備を計画している。今後、温泉全体のあかりでライトアップして、魅力をさらにアップしていきたい。



写真 視察先会場の観光センター



写真 皆生温泉が立ち並ぶ海岸線

4. 本市の取り組みと今後の可能性について

2023年、令和5年策定の新第6次振興計画における観光振興については、以下のとおりである。また、今年度については、本市の観光振興計画を策定し、本市の観光に係る新ビジョンを決定する予定になっている。

さて、本市の観光振興について、計画には、第2節「新しい生活様式に沿った観光振興」として、以下のとおり記載されている。

■現状と課題

コロナ禍、そして収束後における観光振興については、これまでとは大きな変化が想定される観光客の行動様式に対応するため、「新しい生活様式」に沿った受入態勢の整備が重要です。観光客が安心して本市を訪れ、安全に滞在できる環境づくりを進めることで、感染予防対策を図りながら、観光交流人口の拡大を目指していく必要があります。また、これまで以上に、地域資源の発掘や磨き上げ、市民挙げてのホスピタリティの向上を図ることに加え、観光客のニーズとトレンドを捉えた新鮮な観光情報の発信に取り組み、観光客の満足度とリピート率のアップ(再来型観光)につなげていくことが必要です。今後の課題としては、観光客の行動範囲の拡大を踏まえ、周辺自治体との連携強化による広域観光の推進、外国人観光客にも対応できる観光案内サービスの充実化を図り、周遊性・利便性の向上につなげていくことが求められています。

■政策の取組方向

「新しい生活様式」に沿った受入態勢の整備、観光資源の発掘や磨き上げ、周辺自治体との連携強化による広域観光の推進などを図りながら、インバウンドを含めた観光交流人口の拡大を目指します。

■5年後の目標・指標

・年間観光客数

計画策定時 340 万人 ⇒ 目標(R7) 360 万人

・年間宿泊者数

計画策定時 5.3 万人 ⇒ 目標(R7) 5.5 万人

・年間外国人観光客数

計画策定時 3,600 人 ⇒ 目標(R7) 5,000 人

・観光案内HP・SNSアクセス数

計画策定時 11 万回 ⇒ 目標(R7) 15 万回

・慈恩寺ガイドンス施設年間入館者数

⇒ 目標(R7) 10 万人

本市の観光戦略につきまして、宿泊者数では、皆生温泉の40万人に比較すれば、本市の5万人は8分の1にすぎませんが、本市の年間観光客335万人の日帰り観光客をサンセット時以降夜間まで滞在時間を延長していただけるような「魅力アップ」を施せば、さくらんぼ観光の6月以外の通年宿泊旅行客をさらに増加させることが可能であると思います。特に、本市に観光客にお金を落としていただくためには、温泉旅館やホテルのさらなる観光戦略を講じていかなければなりません。前述した旅館・ホテル周辺の街路灯整備、JR 寒河江駅や西寒河江駅から冬のイベント「音と光のファンタジア」の会場となる最上川ふるさと総合公園までの照明、新寒河江温泉市民浴場「ゆるりさがえ」周辺の魅力あるまちづくりを進めていくため、暖かな安心感を醸し出す街路灯の設置など、さらなるハード整備が不可欠であることは、言うまでもありません。

5. むすびに

皆生温泉は、明治33年に漁師が偶然発見し、湯治湯として知られるようになりました。全国でも珍しい海から湧く、潮の香りが心地よい温泉で、別名「塩の湯」といわれています。「皆生(かいけ)」は「皆、生きる」の意味で、その昔、出雲の「稲佐浜」から泡となった魂が流れ着き、新しい体と心がよみがえったという伝説から由来します。源泉は19カ所あり、泉質は「ナトリウム・カルシウム塩化物泉」で、海水が混入しカルシウム分が多いのが特徴です。泉温は63～83度で、県内でもっとも高温な湯。つるつるのお肌と健康をつくる湯として知られ、美容旅行に最適と、女性に大人気の温泉です。また、日本海に面しているため、毎日水揚げされる新鮮な旬の魚介類を味わえるのも大きな魅力です。威勢のいい掛け声が飛び交う市場には、観光客が多く訪れ、鮮魚をお手頃価格で買えると評判です。

本市の寒河江温泉は、1954年に佐藤繊維の工業用井戸を掘削して、現在の源泉が偶然湧き出たと言われており、民間開発によるそのストーリーは皆生温泉と似ているのではないのでしょうか。また、1980年の行政による掘削により市民浴場の源泉が湧き出て、寒河江南部地区を中心に日帰り温泉の恩恵を受けることになりました。活断層の上にあったことと老朽化によって移転新築し、今年4月28日、「ゆるりさがえ」がオープンしました。JR南寒河江駅に近いことから、部活動を終えた帰宅途上の高校生が立ち寄りところとなっています。若者が温泉やサウナを愛する嗜好は、今後ますます広がっていくと言われていています。したがって、老若男女が集う寒河江温泉、新寒河江温泉にも大きな期待がかかっています。

今回の視察させていただく機会を得たことを今後の観光振興に向けて、先進的な成功例を基に具体策を提言していきたいと思えます。

最後に、私たちの視察受け入れをご快諾いただきました米子市議会稲田清議長様はじめ議会事務局田中係長様、そして文化観光局観光課諏訪係長様はじめ職員の皆様に対しまして、重ねて衷心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

◎ご対応いただきました皆様(順不同)

米子市議会事務局係長 田中紀江様

文化観光局観光課長補佐 宮前美樹様

文化観光局観光課観光戦略担当係長 諏訪創様

文化観光局観光課主任 山口拓志様

視察研修先	島根県松江市議会	氏名	渡邊 賢一
視察研修項目	MATSUE 起業(エコシステム推進事業)について		

1. はじめに

松江市は、起業支援、経営支援及び起業家教育等に関わる様々な主体が互いに相乗効果を生み出すことで、MATSUE 起業エコシステムの形成を推進することを目的として、2022年3月に「MATSUE 起業エコシステム推進会議(推進会議の構成団体)」を設立しました。その構成団体は、松江商工会議所、国立大学法人島根大学、公立大学法人島根県立大学、独立行政法人国立高等専門学校機構松江工業高等専門学校、株式会社日本政策投資銀行松江事務所、株式会社日本政策金融公庫松江支店、株式会社山陰合同銀行、ごうぎんキャピタル株式会社、株式会社島根銀行、しまね信用金庫、島根県、公益財団法人しまね産業振興財団、島根県教育委員会、松江市教育委員会、松江市(事務局)です。推進会議は、チャレンジャーと支援者がいつでも気軽に参加できるコミュニティ「MIX」の運営と、市内高校生・大学生を対象としたアントレプレナーシップ教育プログラム「2022キラボシプロジェクト」の2事業を中心に事業を展開しています。

また、松江市は、リピープロジェクト松江と銘打って、地域人材を大切に磨く、学生向けのRuby(ルビー)人材育成から取組み、産学官の連携により質の高いRuby(ルビー)人材育成環境を提供しています。また、IT産業の振興施策と企業立地の推進により、育成した人材の雇用の場を確保しています。

偶然にも、本市のさくらんぼの品種の一つでブランド化している「さがえルビー」は、紅秀峰の別名であり、親近感を持って視察にお伺いしたところです。

ルビーシティ MATSUE プロジェクトの SNS 広告 (FB より転載)

2. MATSUE 起業 (エコシステム推進事業) の概要

松江市は、新しい事業や産業を生み出すためのエコシステム(米国シリコンバレーを発祥とし、継続的にスタートアップが生まれ育つ仕組み)を形成すべく事業を展開しています。MATSUE 起業エコシステムは、松江市で目指すエコシステム「地域内で起業家、支

援者、企業、大学、金融機関、公的機関などが結びつき、起業を次々と生み出し、それがまた優れた人材・技術・資金を呼び込み発展を続ける状態」です。また、コンソーシアムは、起業支援、事業承継支援、新規事業開発支援及び経営支援(以下、「起業等支援」という。)並びに起業家教育に関わる様々な主体が互いに連携することで、新たな挑戦を志すものの目標に寄り添った支援を提供する、MATSUE 起業エコシステムの形成を推進し、地域産業の持続的発展を図ることを目的としています。

【紹介動画】

<https://mix-matsue.jp/matsue-business-ecosystem/>

「コワーキングスペース 縁雲(えんうん enun)」

今回私たちが現地視察させていただきました「コワーキングスペース 縁雲(えんうん enun)」は、水の都松江の中心部宍道湖湖畔、松江市役所そばに立地する松江ニューアーバンホテルの2階と3階に入っていました。湖畔に湧く松江しんじ湖温泉を源泉とする天然温泉を完備する、まさに恵まれすぎのホテル一体型のコワーキングスペースです。レンタルオフィスやスタジオ、ミーティングルーム、キッチンまで完備する利便性マックスのこのような施設は、全国で採択されたのがわずか3カ所であるとのこと。日本ベスト3の居心地で、長期滞在も可能となれば、最高の環境の下で自然とすばらしいアイデアも出てくるだろうな、と、感動しました。

サテライトオフィスや起業時に最適なレンタルオフィス、開放的な空間のコワーキングスペース、用途によって使い分けができるミーティングルーム、Youtube の LIVE 配信・編集スタジオなど、シーンによって様々な使い方を選ぶことができます。

3. 質問事項 (当日の質疑応答・意見交換を含む)

①これまでの実績や利用による価値について

- ・まもなく1周年を迎え、多くの利用者から好評を得ている
- ・毎週のイベント参加により、地域や地域を超えた利用者やコミュニティメンバーとのつながりが拡大
- ・地域ネットワークが広がり、利用者連携の企画や活用機会が拡大
- ・交流会を通じて異業種連携及び地域交流の契機を創出

②起業支援の状況について

◆2022 年度実績

- ・MIX コミュニティ運営イベント 67 回 600 人参加
- ・相談窓口 200 件
- ・キラボシプロジェクト U-18 17 組 U-20 8 組
- ・実証実験支援制度 2 件採択
- ・金融機関向け勉強会 2 回開催 35 名参加
 - 10 月 21 日 22 日 ベンチャー投資家と過ごす 2 日間 15 名参加
 - 11 月 24 日 社会起業家と地域金融 20 名参加

- ◆2023年度予算額 2000万円 内訳
 - コミュニティ運営 800万円
 - 事業化支援 400万円
 - 支援機関研修 50万円
 - アントレプレナーシップ教育事業補助金 550万円
 - プロモーション 170万円
 - 事務費 30万円

③各産業界における波及効果について

相談支援については、20代半ばの若者が起業するチャレンジャーをバックアップするために、先輩から体験を基にした貴重な話を聞く絶好の機会が、各産業の事業創出に向けて地域企業、支援機関がタイアップしている。

チャレンジャーの支援を具体的に推し進めるMIXPOCには、電動キックボード、健康体操を起業支援候補として挙げてきた。ヘルスケアベンチャーの健康体操については、事業所における職業病予防など福利厚生事業や労働安全衛生事業として活用されるニーズがあることも明らかになっている。

◆ヘルスケアベンチャー「しあえる」紹介HPより

「しあえる」は企業が抱える「職業病」に着目した新たな健康経営支援サービスです。生産性低下や休職等につながる根幹原因である「職業病」を企業で働く従業員、専門チームとともに講義・ワークショップ等を通じて解決していきます。現在、数社(建設業・製造業・林業など)に試験的に事業導入をして、「しあえる」が従業員の職業病による労働生産損失額や休業などを減らすことが分かってきました。MIXPOCでの事業開発・検証サポートでは、より多様な業態で弊社のプロダクトが効果を発揮するために、開発・検証を重ねることで結果の再現性を高めて参ります。



(株)CANVAS 健康まちづくり EXPO2023

④今後の課題・展望について

松江市は、目標年の2030年、松江発産学官金連携モデルによる起業・新ビジネス創出による好循環をもたらす、起業家精神を持つチャレンジャーが本気で挑戦できる環境をつくることを目指しています。それは、人口減少対策として現在の20万人を2060年に15.5万人となる推計値を18万人にとどめることも大きな目標であり、20代の就職に伴う転出超過を転換し、若者が住み続けたい、戻りたい街となるように政策の基本構想としています。この事業がさらにチャレンジャーファーストとなり、若者にしっかり根付き、選ばれ、夢に挑戦できる、夢が実現できる、夢が応援されることにつながっていくでしょう。

4. 本市の取り組みと今後の可能性について

本市の新第6次振興計画では、以下のように記載されています。

施策1 中心市街地の活性化

○空き店舗解消のための店舗の誘致や新規創業を支援し、魅力あふれるまちづくりを進め、中心市街地の活性化を図ります。

○マルシェなどのイベント開催による賑わい創出と併せて、中心市街地活性化センター（フローラ・SAGAE）の利用促進とチャレンジショップ制度などによる機能充実（店舗拡大）、施設整備を図ります。

【主な取組】

- ・中心市街地活性化に向けた空き店舗対策と情報発信の強化
- ・商工会等との連携による経営相談や支援の強化
- ・賑わい創出のための誘客イベントの開催
- ・利便性向上のための中心市街地活性化センター（フローラ・SAGAE）の各フロアの機能充実と施設整備

■施策2 地元商業の振興

○活力ある地元商業の振興を図るため、インターネット通販なども含めた魅力ある個店づくりを支援します。

○商店後継者及び新たな起業創業者の育成を図るため、創業支援事業計画に基づき支援を充実します。

【主な取組】

- ・魅力ある個店づくりや商店街の施設整備に対する支援
- ・買い物弱者対策など商店街の新たな利用拡大策の推進
- ・創業支援事業計画に基づく起業や創業に対する支援

■施策3 地元企業の支援

○国内外の経済を取り巻く環境の変化に対応した地元企業への速やかな支援の充実を図ります。

○市外に向けた地場製品の販売支援を強化します。

○市場ニーズに応える産業の育成支援を図ります。

【主な取組】

- ・経済情勢に対応した地元企業への支援
- ・市産品の販路拡大支援とPRの強化
- ・産学官連携の強化や産業間連携に対する支援

■5年後の目標・指標

- ・創業支援者数 計画策定時 35 人 ⇒ 目標(R7) 45 人

本市では、これまで創業相談等を実施してきましたが、創業支援等計画により、各関係機関に創業に係る相談窓口を設置するなど、寒河江市及び西村山4町の西村山地域一体

となった広域の支援体制の整備を行い、年間 63 件の創業の実現を目指す計画です。具体的には、2019 年度～2024 年度にかけて、創業希望者に対して、窓口相談、起業セミナーによる支援を実施。また、新たに就業・起業体験を通じて創業機運の醸成を図っていきとしています。具体的には、1市4町が創業に係る窓口を設置するとともに、創業希望者向けの相談窓口を設置する金融機関等と連携し、関係機関の強みを生かした創業支援の提供を行い、広域連携による創業支援を行うことで、創業者の求める条件やニーズに合致する支援を提供することが可能となり、創業者同士のネットワーク拡大を図ることができるのが特徴です。また、商工会によるサポート及び各創業支援機関によるセミナーの開催や専門家派遣・マッチング支援など、創業前から創業後のアフターケアまで一貫して取り組んでいます。創業後の支援は、ネットワーク構築支援や個別経営指導も行っています。KPI の数値目標としては、西村山地域全体で、創業支援対象者数152人、創業者数63人(うち実数28人)、創業機運醸成事業の対象者数500人としています。

コロナ禍後に回復しつつある地域経済ですが、まだまだその道のりは遠く険しいものと推察されますが、先進地から学ぶ要素は共通していると思います。本市の人口が4万人を割り込み、さらなる人口減少に歯止めをかけていくためには、これまで以上の政策立案とこの事業計画の着実な実施が必要です。

さて、その一つとして、先月創業セミナーが開催されました。初日は、起業の目的、自分自身の棚卸、開業準備の基礎知識、事業のアイデアのまとめ方などを勉強し、2日目は、理想的な顧客層の設定、事業コンセプト、マーケティング、店舗立地の見極め方、広告・宣伝戦略などを研修し、そして最終日は、日本政策金融公庫の創業者支援について、起業創業希望者の資金計画、収支計画、資金繰りのポイントを学んだうえで、ビジネスプランを発表する内容となっています。参加した方々の中から、実際に起業し、地域経済の担い手となってほしいと思います。

5. むすびに

山形県の事業所新設率は、全国 47 位(平成 28 年経営センサス活動調査)と全国最下位となっています。加えて、新型コロナウイルスの影響による雇用機会の喪失や地域経済の縮小が懸念されるなか、今後の県内経済の活性化と新陳代謝のために、県内の創業の増加、新事業の創出が必要となっています。創業のハードルを下げ起業の掘りおこしを図るため、これまでも行ってきた創業支援と、オープンイノベーションを加速させる場としてのコワーキングスペースを結合させることにより、集まる人が新たなビジネスを創り、新たなビジネスが新たな人を呼び込む好循環を実現する拠点を山形駅直結のビル「霞城セントラル」2F に 2022 年 11 月 18 日に複合型コワーキングスペース「スタートアップステーション・ジョージ山形」をオープンしました。

※スタートアップステーション・ジョージ山形:<https://www.george-yamagata.jp>

本市は、JR 左沢線で霞城セントラルに直結しているメリットがあります。さらに、JR 左沢線によって、西村山地域の多くの高校生が山形市の公私立高校に通学し、西村山地域の高校の入学試験では定数割れによる倍率が1.0を割ってしまっている現実があります。それは、多くの要因があり、これと断定できるものではありませんが、これまでの県や本市を

含む自治体の政策が、山形市一極集中を助長してきたことは、事実であり、こうしたことから若者の人口流失に歯止めをかけていかなければなりません。

そのため、若者の夢と希望を育み、実現に向けて後押しする「チャレンジャーファースト」をもっともっと前面に出し、若者の笑顔あふれる寒河江市をつくっていく、政策を検討していくべきです。今回の視察は、百聞は一見に如かず、大変勉強になりました。

最後になりますが、豪雨災害後の大変あわただしい状況、また台風が接近して予断を許さない状況下にもかかわらず、私どもの視察を快く受け入れていただきました松江市市議会吉金隆議長、議会事務局事務局次長 竹田様、議事調査課 牧田様、産業経済部まつえ産業支援センター 高田センター長様、周藤係長様、そしてコワーキングスペース 縁雲のスタッフの皆様に、衷心より厚く御礼申し上げます。大変ありがとうございました。

◇今回の視察で温かいご対応をいただいた皆様(順不同)

松江市議会事務局 事務局次長 竹田優子様

議会事務局議事調査課 調査係 牧田慧様

産業経済部まつえ産業支援センター センター長 高田俊哉様

産業支援センター 産業支援係長 周藤はるみ様



写真 松江市議会議場にて(一番左が筆者)

様式第2号

視察研修先	島根県出雲市議会	氏名	渡邊 賢一
視察研修項目	縁結びデジタルプロモーション事業について		

1. はじめに

出雲市は、島根県の東部に位置し、日本海、宍道湖(しんじこ)に面しています。市の北部は島根半島、南部は中国山地で構成されています。中央部には中国山地から流れる斐伊川(ひいかわ)と神戸川(かんどがわ)の二大河川により形成された出雲平野が広がっています。斐伊川は宍道湖へ、神戸川は日本海に注いでいます。市内には、宍道湖、神西湖(じんざいこ)という2つの湖があり、海、山、平野、川、湖と多彩な自然に恵まれています。奈良時代にまとめられた『古事記』では、神々の物語を描いた上巻の3分の1で出雲地方が舞台となっています。市内には『古事記』をはじめ、『日本書紀』や『出雲国土記』など神話ゆかりの地が数多く残されていることから、「神話のふるさと」として広く知られています。いにしえから受け継がれてきた伝承地が身近に存在しています。



写真 HPより転載 稲佐の浜の沖ノ御前



出雲市役所

2. 事業の概要

出雲市では、出雲の魅力を多くの人に伝えるため、様々な分野のウェブサイトを作成し、情報発信を行っています。より多くの方にウェブサイトを読覧して、出雲の魅力を発信するため、これらのウェブサイトを互いに関連付け、インターネット広告を活用して市のPRを行う「縁結びプロモーション事業」を実施しています。この事業では、出雲のファン(これからファンになる人を含む。)に対して、出雲の情報をより効率よく発信し、出雲の情報に触れてもらうことで、将来の移住・定住や特産品の購入など、出雲に関わる人の増加をめざしています。

3. 視察調査項目のご説明・意見交換の内容

はじめに、事業概要の詳細につきまして、総合政策部政策企画課様から大変丁寧なご説明

を受け、次に出雲の産業サイト「出雲人 IZUMOJINE」による情報発信について、ジョブナビ IZUMO デジタルマーケティングについて、産業経済部産業政策課様よりわかりやすくご紹介をいただきました。その後、産業振興部商工政策課様より出雲ブランド商品等 PR 事業「出雲ブランド商品」「おいしい出雲」のラインナップをご説明いただきました。出雲市における先進的ブランディングの本質と戦略的マーケティングによって、観光入込客数 8 年間で一億人、年平均 1250 万人を目標に据えて、振興計画出雲神話2030に向かっていることをお伺いしたところです。特に、SNS 広告を利活用した海外向けのデジタルマーケティングは、コロナ禍後のインバウンド訪日客来寒客の呼び込みには、大変重要であると感心いたしました。そのツールとして、出雲デジタルプロモーション事業は、効果的かつ的確に進行していることをご説明いただいたところであります。観光振興、そしてデジタル戦略に取り組んでいる本市にとって、大変参考になるものばかりでした。

大変たくさんの資料を頂戴したのですが、紙面の関係ですべて書き込むことができません。お詫び申し上げますとともに、頂戴しました貴重な資料や実践データ、実績につきまして、今後最大限活用させていただきます。ありがとうございました。

4. 本市の取り組みと今後の可能性

本市の新第6次振興計画の将来都市像の実現に向け、行政はもとより市民生活や経済活動に、限られた人的・財政的リソースを最大限に活用するため、デジタル技術を生かした事業展開しています。デジタル化により生み出された人的資源を、これまでにないチャレンジに振り向け、新たな創造による持続的で健全な発展と市民ひとり一人が幸福な生活を営めるよう「いつでも どこでも 幸せ実感 DX さがえ」の実現に向け取り組んでいます。本市のデジタル戦略計画によれば、「産業(仕事)における DX」として、以下の計画が示されています。

(a) 目指す方向「デジタル化推進による地域経済産業の発展」

本市は、市勢の維持を図り、人口減少に伴う労働人口の減少に対応するためには、産業では高品質の産品を産出し、消費者に提供を行っていく必要があります。また、これまでの経験に培われた技術を後世に伝え発展させる必要もあるため、その資料や活動等を画像や映像等のデジタルデータとして記録保存し、デジタル技術を活用し広く利用するための支援を行います。加えて地域伝承文化を後世に伝えるためのデジタル化も推進します。コロナ禍における新しい生活様式への対応により、就業形態に対する勤労者の意識も大きく変化しました。こうした背景を踏まえ、テレワークや二地域居住を推進するための支援も行っています。

(b) 具体的な施策

・農林業のスマート化に向けた支援

農業分野における就農者高齢化の進行による生産性低下に対応するため、全球測位衛星システム(GNSS)やリモートセンシングなどの導入に向けた支援に取り組むとともに、良質な産品の出荷を図るため、AI等の技術活用について検討・支援する。

・EC 拡大への支援

商取引の機会拡大を図るために、市内小売店・農産品・事業者のインターネット販売強化の

支援に取り組む。

・キャッシュレス決済の導入支援

市内小売店等における利便性の向上を図るため、二次元バーコードの活用やスマートフォン等スマートデバイスを利用した決済への対応を支援する。

・リモート商談システム・WEB 会議システムの導入支援

時間や空間的な制約を超えた商取引等を推進するために WEB を活用したりリモート商談や WEB 会議の導入を支援する。

・WEB を通じた働き手の確保

農業分野における働き手不足は深刻であり、働き手を広く募る必要があります。また、働き手に集ってもらうためには生産者の姿が見えることも必要と考えます。その課題を解決するために、WEB を通じた求人活動に加えて応募者にアピールするため生産者の見える化を図る。

・テレワーク・ワーケーション等の支援

市内企業におけるテレワークの導入を支援するとともに、労働者から二地域居住の一つとして本市の選択を推進するために、環境整備に取り組む。

・電子ポイント等による経済活性化

ボランティアポイント等の導入により市民の市事業への参画を促すとともに、ボランティア活動等の意識醸成を図る。

今後は、SNS 広告を利活用した海外向けのデジタルマーケティングにおいて、コロナ禍後のインバウンド訪日客来寒客の呼び込みには、大変重要であり有効な手段であります。そのツールとして、デジタルプロモーション事業は、効果的であり、現在の取り組み以上にギアを上げて、観光振興、そしてデジタル戦略に取り組んでいく必要があります。

5. むすびに

大学3大駅伝の一つ、出雲駅伝は、今年も10月9日のスポーツの日、祝日に開催される予定です。フジテレビ系列で独占生中継、スポンサーの一つが JA 全農グループです。JA 島根の本所前、出雲市役所の正面には、大きな看板が掲示されておりました。大学生にとって夢の舞台で、全国の予選を勝ち抜いた大学と昨年シード権を獲得したチームだけが出雲大社前のスタートラインに立つことができるのです。

さて、今回の視察の中でずっと考えてきたことは、この駅伝競走大会の CM の中で、全国に出雲市の魅力を情報発信できる機会であること、出雲市のブランド品をクイズの商品にもできるのではないかと思いました。

本市のさくらんぼマラソンのデジタルプロモーションである PR 動画配信は、数年前から行っていますが、全国のご当地マラソンの規模からすればまだまだ不十分でありことは、言うまでもありません。そうした課題も、今後観光振興、スポーツ振興の縦割りの壁を取っ払って、解決していく必要があります。今回の視察を今後の議員活動のみならず、効果的な政策提言

としてまとめて、有効活用させていただきます。

最後になりますが、豪雨災害後の大変あわただしい状況、また台風が接近して予断を許さない状況下にもかかわらず、私どもの視察を快く受け入れていただきました出雲市市議会 保科孝充福議長様、議会事務局事務局次長補佐 小川様、総合政策部政策企画課企画係 松浦係長様、同じく西村主任様、商工振興部産業政策課 岡課長補佐様、商工振興部商工振興課 梶谷課長補佐様はじめ詳しい資料をご準備いただき、またご丁寧な説明をしていただいた多くの職員の皆様には、衷心より厚く御礼申し上げます。大変ありがとうございました。

◇今回の視察で温かいご対応をいただいた皆様

(順不同・名刺交換させていただいた方々)

出雲市議会副議長 保科孝充様

議会事務局次長補佐 小川貢央様

総合政策部政策企画課企画係 係長 松浦昭史様

総合政策部政策企画課企画係 主任 西村奈穂様

商工振興部産業政策課課長補佐 岡 文造様

商工振興部商工振興課課長補佐 梶谷淳司様



出雲駅伝の看板



出雲市議会議場にて